

関西から「死の灰 6 万発分の」核のゴミがやって来る

～私達が上関の使用済み核燃料中間貯蔵施設に反対する理由～

反対理由① 想像を絶する量の危険物質。ほんの少し漏れても重大事故になる

- ・関西電力の当初計画では中間貯蔵施設には2000トンを保管する想定です。
- ・「キャスク」という巨大な保存容器に5トンの使用済み燃料が入り、最終的には関西電力分だけで400個のキャスクが運搬・設置されることになります。
- ・使用済み核燃料1トンには広島型原爆の死の灰30発分が含まれるので、キャスク1個で死の灰150発分となります。

運送途中や保管場所で何らかの事故が起こり容器が破損したら、1つの容器だけで死の灰150発分が空気中又は海中に漏れ出してしまい、事故が上関で起きたら周辺市町の大半は人が住めない地域になってしまいます。

反対理由② 事故が起きる可能性は様々。

中国電力も100%の安全は無理と認めている。

中間貯蔵について一般的に言われている事故の可能性は5パターン。

1. **自然災害** 南海トラフのリスクだけでなく、中間貯蔵施設の建設予定地のすぐそばに長さ60kmにもなる活断層があることが昨年明らかになりました。
2. **テロ・第三国の攻撃** 核関連施設は攻撃対象になり得ます。実際にアメリカやロシアによって核施設が攻撃されたり、原子力発電所が占領されたりします。第三国からは邪魔となる岩国米軍基地は計画予定地からわずか40数キロ。NHK ニュースでは、日本の原発施設と関門トンネルがロシアの攻撃対象リストに載っていることが報じられています。
3. **運送中の海難事故** 2018年大島大橋への貨物船衝突による断水、2023年自衛隊の護衛艦の座礁、計画地周辺だけでも重大な船舶事故が何度も発生しています。
4. **想定外の事故** 5. **人為的なミス**

中国電力は、上関の周辺市町の議員への説明会でも、「あらゆることについて100%安全とは言えない」と、安全を約束しきれないことを認めています。

反対理由③ 重大事故で家に住めなくなっても、誰も責任をとってくれない

・

反対理由④ 関西から押し付けられる

反対理由⑤